

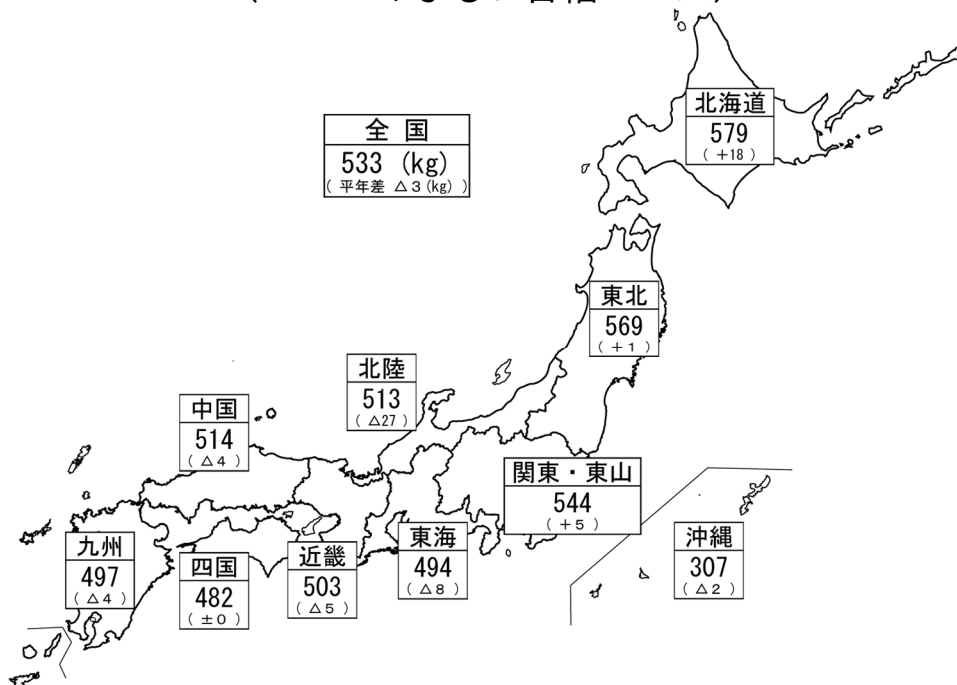
作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量

— 予想収穫量（主食用）は661万tの見込み —

【調査結果の概要】

- 1 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。うち主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった。
- 2 全国の10a当たり予想収量は533kgと見込まれる。
- 3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は716万5,000t（前年産に比べ10万4,000t減少）と見込まれる。このうち、主食用の予想収穫量は661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）と見込まれる。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101となる見込み。

図1 全国農業地域別10a当たり予想収量（10月25日現在）
（1.70mmのふるい目幅ベース）



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 10a当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10a当たり予想収量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

◎ 累年データ

水稻（子実用）の年次別推移（全国）

年 産	作 付 面 積	10 a 当 たり	収 穫 量	主 食 用	収 穫 量	作 況 指 数
	(子 実 用)	収 量	(子 実 用)	作 付 面 積	(主 食 用)	
	ha	kg	t	ha	t	
平成15年産	1,660,000	469	7,779,000	…	…	90
16	1,697,000	514	8,721,000	…	…	98
17	1,702,000	532	9,062,000	…	…	101
18	1,684,000	507	8,546,000	…	…	96
19	1,669,000	522	8,705,000	…	…	99
20	1,624,000	543	8,815,000	1,596,000	8,658,000	102
21	1,621,000	522	8,466,000	1,592,000	8,309,000	98
22	1,625,000	522	8,478,000	1,580,000	8,239,000	98
23	1,574,000	533	8,397,000	1,526,000	8,133,000	101
24	1,579,000	540	8,519,000	1,524,000	8,210,000	102
25	1,597,000	539	8,603,000	1,522,000	8,182,000	102
26	1,573,000	536	8,435,000	1,474,000	7,882,000	101
27	1,505,000	531	7,986,000	1,406,000	7,442,000	100
28	1,478,000	544	8,042,000	1,381,000	7,496,000	103
29	1,465,000	534	7,822,000	1,370,000	7,306,000	100
30	1,470,000	529	7,780,000	1,386,000	7,327,000	98
令和元	1,469,000	528	7,762,000	1,379,000	7,261,000	99
2	1,462,000	531	7,763,000	1,366,000	7,226,000	99
3	1,403,000	539	7,563,000	1,303,000	7,007,000	101
4	1,355,000	536	7,269,000	1,251,000	6,701,000	100
5（概数値）	1,344,000	533	7,165,000	1,242,000	6,610,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 2 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量（令和5年産は予想）である。
- 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 4 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
- 5 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示している。

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合 45%）以上に相当するよう、ふるい目幅 1.70mm 以上で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（9 ページ【参考 1】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別 10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（全国）

年 産	計	単位：%					
		1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
平成30年産	100.0	0.9	1.6	2.3	3.3	17.6	74.3
令和元	100.0	0.7	1.4	1.9	2.8	15.3	77.9
2	100.0	0.7	1.4	1.9	2.9	14.4	78.7
3	100.0	0.8	1.4	1.8	2.8	14.7	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	14.9	77.9
5（概数値）	100.0	0.6	1.0	1.3	2.1	10.2	84.8
平均 値	100.0	0.8	1.5	2.0	2.9	15.4	77.4
対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.5	△ 0.7	△ 0.8	△ 5.2	7.4

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

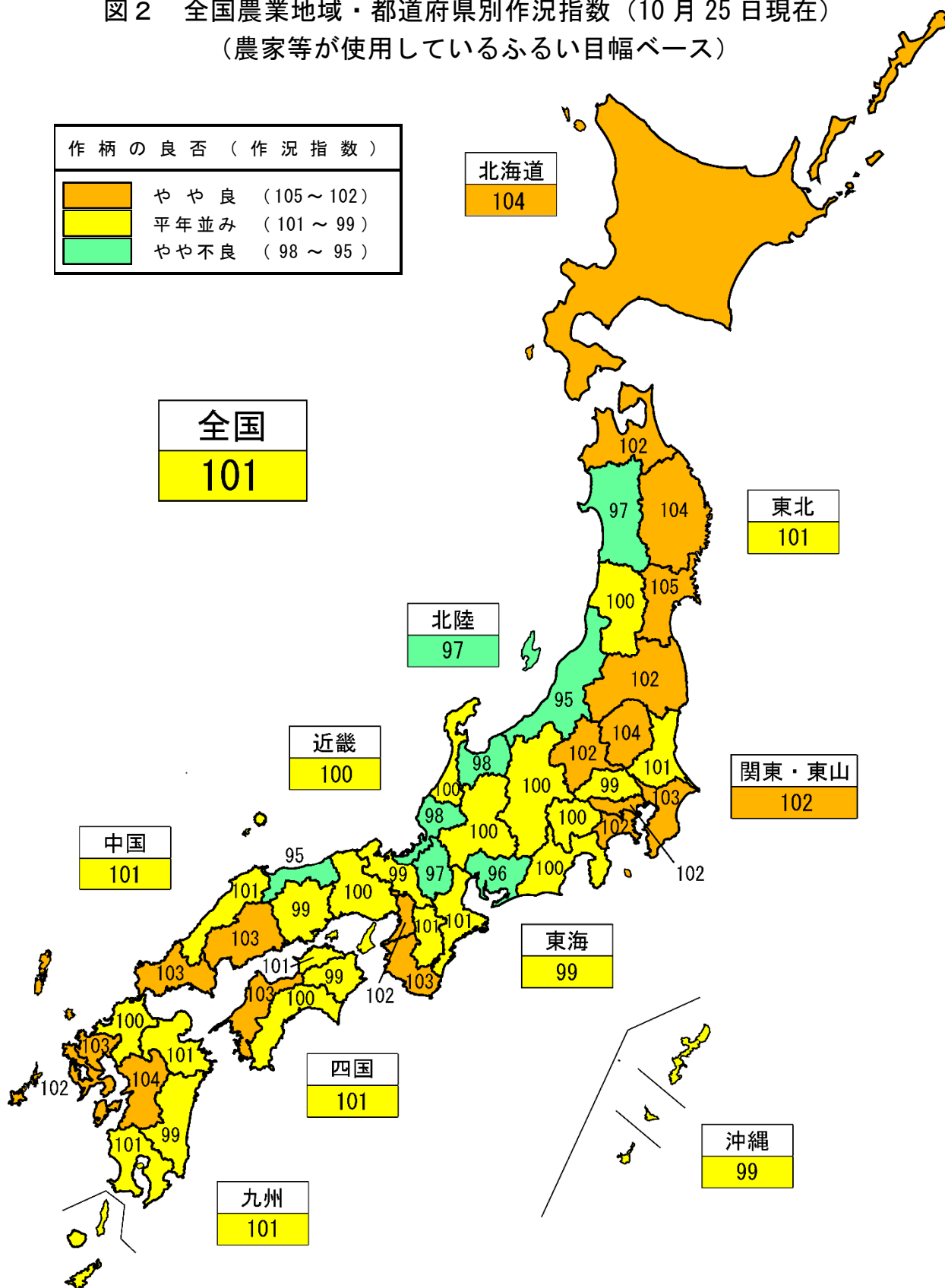
表 2 ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（全国）

年 産	単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上	
		平成30年産	10a 当たり収量	kg	529	524	516	504
	収穫量	t	7,780,000	7,710,000	7,586,000	7,407,000	7,150,000	5,781,000
令和元	10a 当たり収量	kg	528	524	517	507	492	411
	収穫量	t	7,762,000	7,708,000	7,599,000	7,452,000	7,234,000	6,047,000
2	10a 当たり収量	kg	531	527	520	510	494	418
	収穫量	t	7,763,000	7,709,000	7,600,000	7,452,000	7,227,000	6,109,000
3	10a 当たり収量	kg	539	535	527	517	502	423
	収穫量	t	7,563,000	7,502,000	7,397,000	7,260,000	7,049,000	5,937,000
4	10a 当たり収量	kg	536	531	523	513	497	418
	収穫量	t	7,269,000	7,204,000	7,095,000	6,956,000	6,746,000	5,663,000
5 （概数値）	10a 当たり収量	kg	533	530	524	518	506	452
	収穫量	t	7,165,000	7,122,000	7,050,000	6,957,000	6,807,000	6,076,000
	対前年比	%	99	99	99	100	101	107

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国の10a 当たり(予想)収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量(子実用)とは、全国の(予想)収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図2 全国農業地域・都道府県別作況指数（10月25日現在）
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）



注：1 作況指数は、10a 当たり平年収量に対する 10a 当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去 5 か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県及び鹿児島県の作況指数は早期栽培、普通栽培を合算したものである。また、沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の作況指数の算出には、第一期稲の 10a 当たり収量と第二期稲の 10a 当たり平年収量の加重平均を用いた。

【調査結果】

1 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は134万4,000ha（前年産に比べ1万1,000ha減少）となった。

また、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は124万2,000ha（前年産に比べ9,000ha減少）となった（表3参照）。

2 10月25日現在における水稻の地域別の10a当たり予想収量は、以下のとおりである。

北海道においては、田植期以降、おおむね天候に恵まれたことから、579kg（平年に比べ+18kg）と見込まれる。

東北及び関東・東山においては、田植期以降、5月下旬から6月上旬にかけての日照不足の影響があったものの、その後の天候におおむね恵まれたことから、東北は569kg（平年に比べ+1kg）、関東・東山は544kg（同+5kg）と見込まれる。

中国、四国及び九州は、6月から7月にかけての梅雨前線等による大雨や日照不足の影響があったものの、その後の天候におおむね恵まれたことから、中国は514kg（平年に比べ△4kg）、四国は482kg（同±0kg）、九州は497kg（同△4kg）と見込まれる。

北陸、東海及び近畿は、田植期以降の日照不足等に加え、一部地域で7月から8月にかけての少雨や7月以降の記録的な高温の影響が見込まれることから、北陸は513kg（平年に比べ△27kg）、東海は494kg（同△8kg）、近畿は503kg（同△5kg）と見込まれる。

この結果、全国の10a当たり予想収量は533kg（平年に比べ△3kg）と見込まれる。

3 以上の結果、予想収穫量（子実用）は716万5,000t（前年産に比べ10万4,000t減少）と見込まれる。このうち、主食用作付面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、661万t（前年産に比べ9万1,000t減少）と見込まれる（表3参照）。

4 10月25日現在におけるふるい目幅別重量分布状況は、全国平均の1.85mm以上の玄米の重量割合は97.1%と見込まれ、直近5か年平均値と比べて1.4ポイント高くなっている（表4参照）。

表3 令和5年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量

全 国 農業地域	作付面積（子実用）			10 a 当たり予想収量			予想収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ④	予 想 収 穫 量 (主食用) ⑤=④×②	作況指数
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	平年 との比較	前年産 との比較	実 数 ③=①×②	前年産との比較				
		対 差	対 比		対 差	対 差		対 比				
	ha	ha	%	kg	kg	kg	t	t	%	ha	t	
全 国	1,344,000	△ 11,000	99	533	△ 3	△ 3	7,165,000	△ 104,000	99	1,242,000	6,610,000	101
北 海 道	93,300	△ 300	100	579	18	△ 12	540,200	△ 13,000	98	82,200	475,900	104
東 北	349,100	800	100	569	1	10	1,988,000	40,000	102	309,200	1,759,000	101
北 陸	197,700	△ 500	100	513	△ 27	△ 28	1,015,000	△ 57,000	95	174,000	894,000	97
関東・東山	239,500	△ 600	100	544	5	6	1,302,000	11,000	101	227,500	1,238,000	102
東 海	86,800	△ 300	100	494	△ 8	△ 10	428,700	△ 10,100	98	84,300	416,500	99
近 畿	94,700	△ 1,700	98	503	△ 5	△ 14	476,100	△ 22,300	96	91,200	457,800	100
中 国	94,000	△ 1,800	98	514	△ 4	△ 10	483,100	△ 18,500	96	90,900	467,800	101
四 国	43,100	△ 1,500	97	482	0	△ 15	207,700	△ 13,900	94	42,700	205,500	101
九 州	145,300	△ 4,800	97	497	△ 4	3	722,000	△ 19,300	97	139,500	693,800	101
沖 縄	576	△ 63	90	307	△ 2	6	1,770	△ 150	92	544	1,670	99

- 注：1 10 a 当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
4 予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
5 沖縄県の第二期稲は未確定の要素が多いことから、沖縄県計の10 a 当たり予想収量及び予想収穫量の算出には、第一期稲の10 a 当たり収量と第二期稲の10 a 当たり平均収量の加重平均を用いた。
6 作況指数は、10 a 当たり平均収量に対する10 a 当たり予想収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

表4 ふるい目幅別重量分布状況（10月25日現在）

単位：%

全国 農業地域	区分	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
全 国	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.3	2.1	10.2	84.8
	平均値	100.0	0.8	1.5	2.0	2.9	15.4	77.4
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.5	△ 0.7	△ 0.8	△ 5.2	7.4
北 海 道	重量割合	100.0	0.5	0.8	1.1	1.8	9.2	86.6
	平均値	100.0	0.6	1.0	1.2	2.0	10.7	84.5
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.2	△ 1.5	2.1
東 北	重量割合	100.0	0.4	0.9	1.3	1.9	8.2	87.3
	平均値	100.0	0.6	1.2	1.6	2.5	13.8	80.3
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.6	△ 5.6	7.0
北 陸	重量割合	100.0	0.4	0.6	0.9	1.9	10.1	86.1
	平均値	100.0	0.7	1.2	1.6	2.7	14.6	79.2
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.3	△ 0.6	△ 0.7	△ 0.8	△ 4.5	6.9
関東・東山	重量割合	100.0	0.7	1.0	1.3	2.1	12.0	82.9
	平均値	100.0	0.9	1.4	2.0	3.2	18.5	74.0
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.7	△ 1.1	△ 6.5	8.9
東 海	重量割合	100.0	0.7	1.0	1.2	1.8	6.8	88.5
	平均値	100.0	0.8	1.3	1.9	2.5	11.8	81.7
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.7	△ 0.7	△ 5.0	6.8
近 畿	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.6	2.4	10.5	83.5
	平均値	100.0	0.9	1.6	2.0	2.8	14.2	78.5
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.4	△ 0.4	△ 3.7	5.0
中 国	重量割合	100.0	0.6	1.0	1.4	2.0	10.2	84.8
	平均値	100.0	0.9	1.6	2.2	2.9	14.5	77.9
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.3	△ 0.6	△ 0.8	△ 0.9	△ 4.3	6.9
四 国	重量割合	100.0	0.8	1.4	1.8	2.6	11.9	81.5
	平均値	100.0	1.2	2.0	2.7	3.5	17.4	73.2
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.9	△ 0.9	△ 5.5	8.3
九 州	重量割合	100.0	0.8	1.5	1.8	3.1	14.4	78.4
	平均値	100.0	1.4	2.6	3.3	4.9	22.3	65.5
	対平均差(ポイント)	0.0	△ 0.6	△ 1.1	△ 1.5	△ 1.8	△ 7.9	12.9

注：1 平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

2 ふるい目幅別重量分布状況は、10月25日現在までに刈取り・調製が終了した作況標本筆等のデータにより取りまとめたものであり、次回公表において数値が変動することがある（以下同じ。）。

表5 ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）（10月25日現在）

全国 農業地域	区分	単位	1.70mm 以上	1.75mm 以上				2.00mm 以上
				1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上	
全 国	10a 当たり収量	kg	533	530	524	518	506	452
	収穫量(子実用)	t	7,165,000	7,122,000	7,050,000	6,957,000	6,807,000	6,076,000
北 海 道	10a 当たり収量	kg	579	576	571	565	555	501
	収穫量(子実用)	t	540,200	537,500	533,200	527,200	517,500	467,800
東 北	10a 当たり収量	kg	569	567	562	554	543	497
	収穫量(子実用)	t	1,988,000	1,980,000	1,962,000	1,936,000	1,899,000	1,736,000
北 陸	10a 当たり収量	kg	513	511	508	503	494	442
	収穫量(子実用)	t	1,015,000	1,011,000	1,005,000	995,700	976,400	873,900
関東・東山	10a 当たり収量	kg	544	540	535	528	516	451
	収穫量(子実用)	t	1,302,000	1,293,000	1,280,000	1,263,000	1,236,000	1,079,000
東 海	10a 当たり収量	kg	494	491	486	480	471	437
	収穫量(子実用)	t	428,700	425,700	421,400	416,300	408,600	379,400
近 畿	10a 当たり収量	kg	503	499	493	485	473	420
	収穫量(子実用)	t	476,100	472,300	466,600	459,000	447,500	397,500
中 国	10a 当たり収量	kg	514	511	506	499	488	436
	収穫量(子実用)	t	483,100	480,200	475,400	468,600	458,900	409,700
四 国	10a 当たり収量	kg	482	478	471	463	450	393
	収穫量(子実用)	t	207,700	206,000	203,100	199,400	194,000	169,300
九 州	10a 当たり収量	kg	497	493	486	477	461	390
	収穫量(子実用)	t	722,000	716,200	705,400	692,400	670,000	566,000

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、全国又は全国農業地域別の10a 当たり予想収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、全国又は全国農業地域別の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

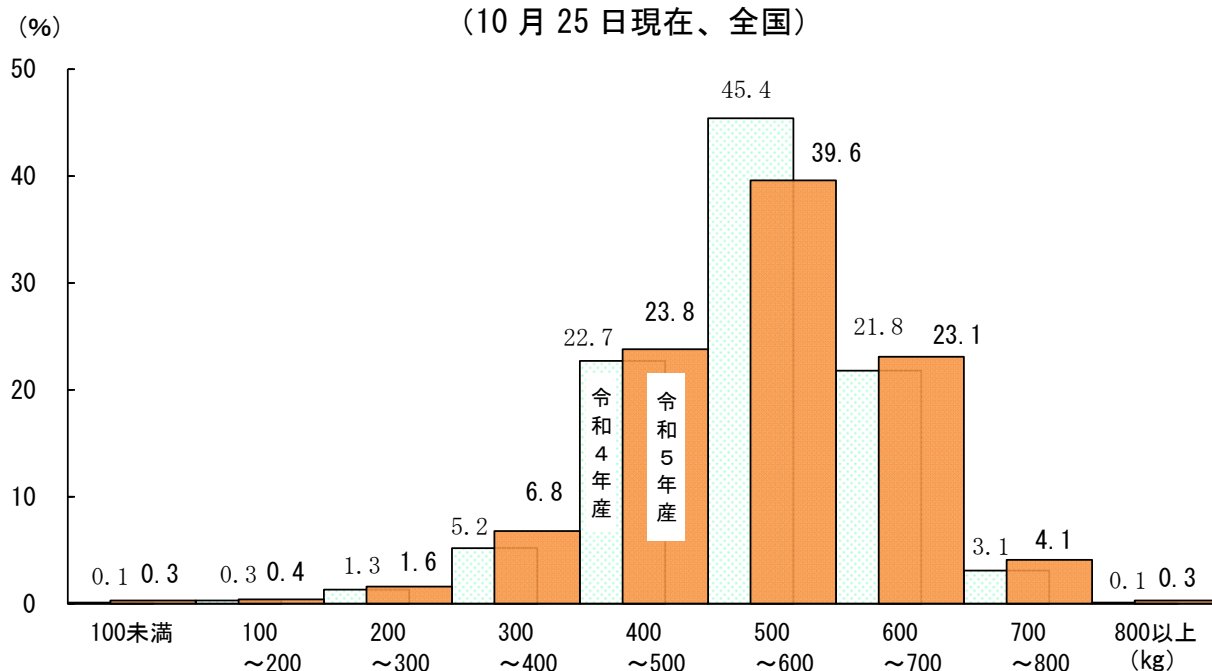
表6 令和5年産水稻の作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況（10月25日現在）

単位：%

全 国 農業地域	区 分	計	100kg 未満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700 ～800	800kg 以上
全 国	筆数割合	100.0	0.3	0.4	1.6	6.8	23.8	39.6	23.1	4.1	0.3
	前 年 値	100.0	0.1	0.3	1.3	5.2	22.7	45.4	21.8	3.1	0.1
	対前年差(ポイント)	0.0	0.2	0.1	0.3	1.6	1.1	△ 5.8	1.3	1.0	0.2
北 海 道	筆数割合	100.0	-	-	0.3	1.0	9.8	45.0	38.8	4.8	0.3
	前 年 値	100.0	0.2	-	0.2	1.5	9.8	38.5	41.8	8.0	-
	対前年差(ポイント)	0.0	△ 0.2	-	0.1	△ 0.5	0.0	6.5	△ 3.0	△ 3.2	0.3
東 北	筆数割合	100.0	-	0.1	0.5	3.0	13.4	38.9	35.1	8.5	0.5
	前 年 値	100.0	-	0.2	0.8	2.8	14.0	44.5	31.6	5.9	0.2
	対前年差(ポイント)	0.0	-	△ 0.1	△ 0.3	0.2	△ 0.6	△ 5.6	3.5	2.6	0.3
北 陸	筆数割合	100.0	0.4	1.2	2.0	6.8	26.4	39.0	21.2	3.0	-
	前 年 値	100.0	0.1	0.2	0.8	3.9	18.8	51.5	23.4	1.3	-
	対前年差(ポイント)	0.0	0.3	1.0	1.2	2.9	7.6	△ 12.5	△ 2.2	1.7	-
関東・東山	筆数割合	100.0	0.1	-	0.8	5.1	21.8	39.2	25.5	6.8	0.7
	前 年 値	100.0	-	0.2	0.5	4.1	21.4	46.9	21.6	4.7	0.6
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	△ 0.2	0.3	1.0	0.4	△ 7.7	3.9	2.1	0.1
東 海	筆数割合	100.0	0.1	0.9	2.4	8.9	30.5	39.2	16.7	1.3	-
	前 年 値	100.0	-	0.4	1.1	6.6	30.1	48.9	12.6	0.3	-
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	0.5	1.3	2.3	0.4	△ 9.7	4.1	1.0	-
近 畿	筆数割合	100.0	0.2	0.2	2.2	8.3	30.6	42.7	14.1	1.7	-
	前 年 値	100.0	0.1	0.4	1.8	7.0	24.8	44.9	18.8	2.2	-
	対前年差(ポイント)	0.0	0.1	△ 0.2	0.4	1.3	5.8	△ 2.2	△ 4.7	△ 0.5	-
中 国	筆数割合	100.0	0.3	0.4	2.0	9.4	27.0	37.6	19.7	3.5	0.1
	前 年 値	100.0	0.3	0.5	2.0	6.3	21.8	44.6	21.8	2.6	0.1
	対前年差(ポイント)	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	3.1	5.2	△ 7.0	△ 2.1	0.9	0.0
四 国	筆数割合	100.0	0.5	0.7	3.6	13.8	33.3	35.8	11.0	1.0	0.3
	前 年 値	100.0	0.2	0.3	3.3	9.7	33.3	40.0	11.5	1.5	0.2
	対前年差(ポイント)	0.0	0.3	0.4	0.3	4.1	0.0	△ 4.2	△ 0.5	△ 0.5	0.1
九 州	筆数割合	100.0	1.0	0.4	2.5	9.3	29.8	41.0	15.3	0.6	0.1
	前 年 値	100.0	0.4	0.5	2.2	7.7	34.5	43.8	10.6	0.3	-
	対前年差(ポイント)	0.0	0.6	△ 0.1	0.3	1.6	△ 4.7	△ 2.8	4.7	0.3	0.1

- 注：1 10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 10月25日現在までに刈取り・調製が終了した作況標本筆のデータにより取りまとめたものであり、次回公表において数値が変動することがある。
 3 沖縄については、作況標本筆を設置していないことから、調査結果を表記していない。

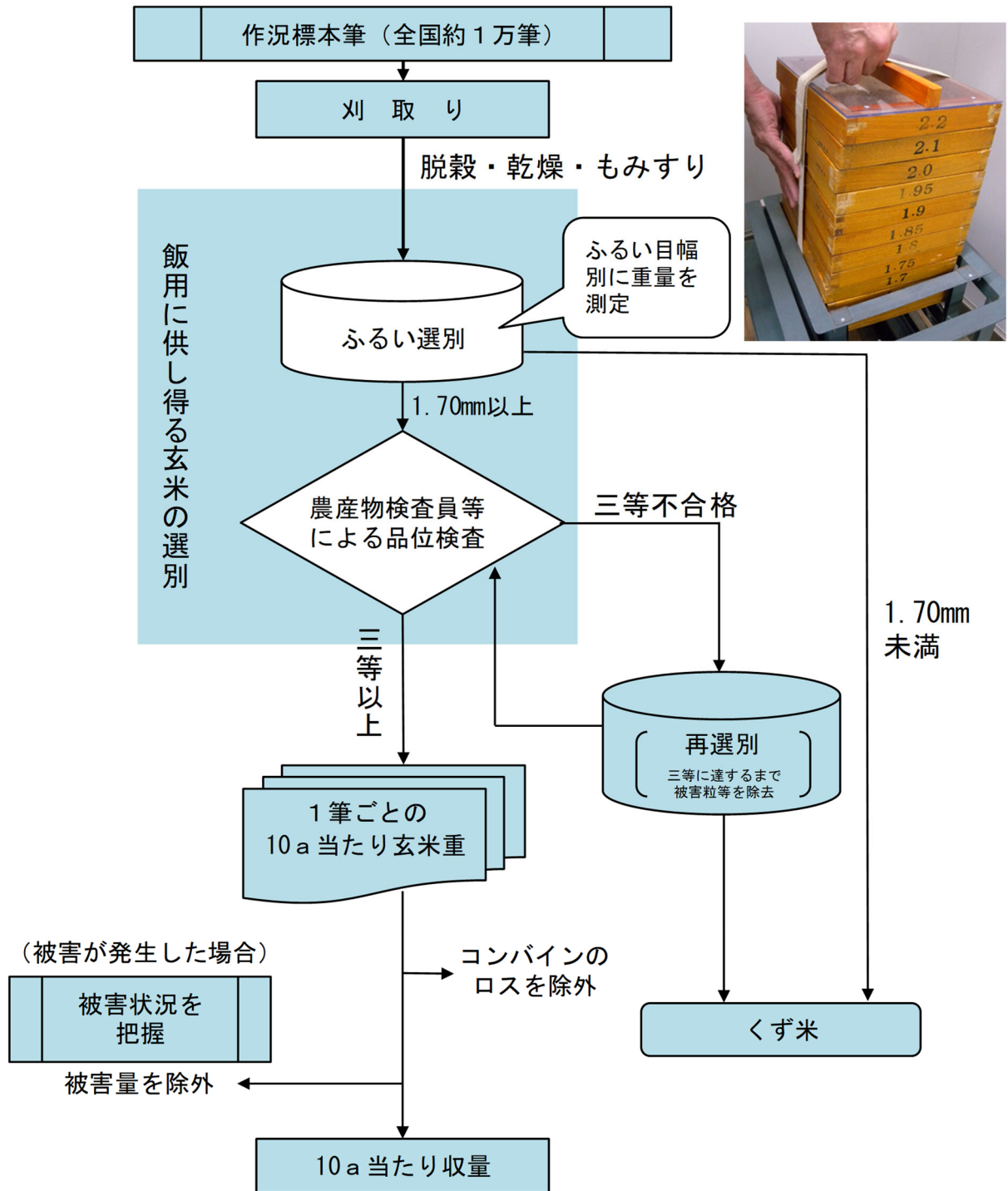
図3 令和5年産水稻の作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況（10月25日現在、全国）



【参考 1】

収穫量調査の流れ

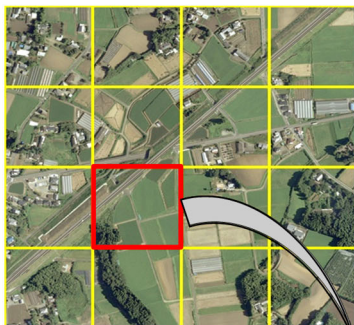
収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考 2】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ。）^{ふで}は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約1万筆）調査している。

全国の全ての土地
(母集団)



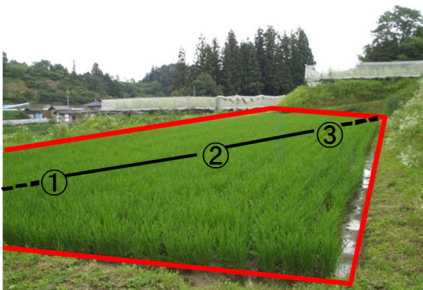
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
(200m四方の土地)



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
(全国で約1万筆)



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【統計表】

<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files/data?sinfid=000040110134&ext=xls>

【調査の概要】

・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稲調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y4

- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値であり、確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和6年2月予定）します。
- ・ 次回（収穫期）の公表は、令和5年12月上旬の予定です。
- ・ 公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせします。

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

お問合せ先

◎本統計調査結果について

・作付面積に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 面積統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3681

（直通）03-6744-2045

・予想収穫量に関すること

農林水産省 大臣官房統計部

生産流通消費統計課 普通作物統計班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3682

（直通）03-3502-5687

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画管理官 統計広報推進班

電話：（代表）03-3502-8111 内線3589

（直通）03-6744-2037



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



令和5年11月1日現在で、2023年漁業センサスを実施します。

(流通加工調査については令和6年1月1日現在)